

JAグループ鳥取自己改革推進レポート（5月号）

1. JA全農と通りの取り組み

① 「JA全農と通り 野菜広域センター」開設

野菜広域センターは、ブロッコリー生産者の労力軽減による生産基盤強化、発泡スチロール氷詰めによる品質保持を目的に、鳥取県本部とJA鳥取中央、JA鳥取西部が共同事業方式で運営を行う県内初の施設で、4月14日に竣工式を行った。

全農県本部の全量買い取りにより、農家所得の安定化も期待され、初年度は26万5,000ケース（1ケース6キロ）の出荷を目指す。



② 全農杯全日本卓球選手権大会（ホープス・カブ・バンビの部）鳥取県予選会開催

5月5日、鳥取県倉吉体育文化会館にて「全農杯全日本卓球選手権大会 鳥取県予選会」を開催した。参加者122名の子どもたちが、7月開催予定の全国大会を目指し力を出し切った。

全農では、日本の未来を担う子どもたちの健やかな心身の成長を願い、未来の夢を応援する目的で2013年から特別協賛している。大会では、優勝者に「鳥取和牛オレイン55」、2位に「鳥取県産米 星空舞10kg」、3位に「ウイナーセット」を贈呈し、参加賞とあわせ県産農畜産物のPRにも取り組んでいる。

今後も子どもたちの心身の成長を願い、子どもたちの夢を応援していく。



2. JA鳥取信連の取り組み

わくわくよりぞうポイントキャンペーンをPR

日本海テレビ（鳥取市）の情報番組「ジョイジョイヌーン」（放送日4月8日）にて、わくわくよりぞうポイントキャンペーンをPRした。

県内JA全体の取り組みとして本キャンペーンをPRするにあたり、視聴者へJA店舗の声をお届けするため、3JAを代表してJA鳥取いなば鳥取支店の入江さんにご出演いただいた。

昨年度に引き続き県内JA全体で取り組む本キャンペーンについては、特に「年金受取」、「給与振込」、「JA一体型カード」を主力推進商品と位置付け、1件でも多くの契約獲得によりメイン化ランクA顧客の増強に繋がるよう積極的な提案セールスの展開を図っていく。



キャンペーンスタートとなる4月は、就職、転勤等により口座開設の機会が増える時期であり、利用者に向け積極的に「口座開設デモシート」を活用し、「JA一体型カード」「インターネットバンキング」のセット推進はもとより、JAバンクアプリのPRも行った。

3. JA共済連鳥取の取り組み

警察と連携した交通事故の未然防止活動の取り組み

「生徒向け自転車交通安全教室」の開催

JA共済では、中高生の自転車乗車中の交通事故の未然防止を図るため、スタントマンが自転車交通事故の実演を行う、「生徒向け自転車交通安全教室」を鳥取県警察本部にご協力をいただき、毎年（年4～6回）開催している。

この教室は、自転車に乗る機会の多い中高生にスタントマンが実演する「傘さし運転」、「平行に並んでの運転などの危険な自転車走行」、「内輪差によるトラックの巻き込み事故」などの事故の衝撃と危険性を擬似体験してもらうことで、違反行為が事故の危険を高めることを認識していただき、交通ルールを守ることで交通事故から身を守る意識を高めってもらうことを目的として実施している。

【スタントマンによるこれまでの実演の様子】



危険な平行走行



自動車と自転車の衝突事故の再現



内輪差によるトラックの巻き込み事故の再現

生徒向け自転車交通安全教室の主な内容

- 1.あいさつ (警察署長・学校長)
- 2.自転車マナー確認 (県警察本部)
- 3.交通事故再現スタント (スタントマン)
- 4.交通安全講和 (警察署)
- 5.交通安全の誓い (生徒代表)

4. J A 鳥取県中央会の取り組み

栗原会長 東京五輪の聖火リレーのランナー 聖火をつなぐ

J A 鳥取県中央会の栗原会長が5月22日、東京五輪の聖火リレーのランナーを務めた。県内第9区間の鳥取市で第6走者としてトーチを掲げ、鳥取駅前の若桜街道約200メートルを走り、次の走者とトーチキスを行い、聖火をつないだ。

栗原会長は、「夢と希望の象徴である東京五輪の聖火を、無事に受け渡すことができた。J Aグループとして地域農業が次世代へ受け継がれるようJ A事業の機能発揮を目指していく」と話した。

聖火は21日、22日の両日、県内を巡り、次の兵庫県へつないだ。



以上